2022 年 6 月 24 日

報道関係各位

学校法人都築学園日本薬科大学
株式会社ＧＳＩクレオス
株式会社共立アイコム

産学協働による生分解性ストローを活用した「学生の環境意識調査」の実施について
– 地球環境にやさしい生分解性プラスチックの普及に向けて –

株式会社ＧＳＩクレオス（以下、ＧＳＩクレオス　東京都千代田区　代表取締役　社長執行役員　吉永直明）は、学校法人都築学園日本薬科大学（以下、日本薬科大学　埼玉県北足立郡伊奈町　学長　丁宗鐵）、株式会社共立アイコム（静岡県藤枝市　代表取締役社長　小林武治）とともに、生分解性プラスチックの普及を促進させるため、本年 6 月 27 日から 12 月 31 日までの期間に日本薬科大学の学生食堂内およびキッチンカーにて、生分解性プラスチック「Mater-Bi（マタビー）」製のストローを用いて、学生の環境意識調査を実施します。

【意識調査の目的】

学生のプラスチックごみに起因する環境問題への意識レベルを把握し、生分解性プラスチックの普及のための課題を明確にするとともに、地球の未来を担う若い世代に同プラスチックの利点への理解を深めてもらうことで、地球環境に対する意識の向上を促し、将来に向けた環境保全活動を促進することを狙いとしています。また、非生分解性のバイオマスプラスチックの普及が急速に進む中で、同素材と生分解性素材の原料と機能の違いについて、正しい認識を促すことも目的の一つとしています。

【意識調査の方法】

無作為に選定した日本薬科大学の学生に対し、生分解性のストロー（15,000 本を準備）を使用してもらいながらインタビューやアンケートによる意識調査を実施します。

＜主な調査項目＞

・プラスチックごみ問題に対する関心度
・バイオマスプラスチックおよび生分解性プラスチック、それぞれの理解度
・生分解性プラスチック製ストローのイメージ
・生分解性プラスチック製ストローの使用感
・環境対応商材を使用したことによる意識の変化

【今後について】

調査結果の分析情報をもとに、若い世代に対してストローをはじめとする生分解性プラスチック製品を訴求するための施策ならびに非生分解プラスチックと明確な差別化を図るための施策を講じていきます。また、インタビューなどを通じて収集した意見を製品開発に反映させ、ニーズを的確に捉えた用途開発を進めていきます。これらによりＧＳＩクレオスは、水と二酸化炭素に分解される環境対応素材・生分解性プラスチックのシェアを拡大させ、環境問題の原因となるプラスチックごみの削減に大きく貢献していきます。

【意識調査における各社の役割】

日本薬科大学	学生に対する意識調査への協力 調査場所の提供
ＧＳＩクレオス	生分解性ストローの提供 生分解性プラスチックに対する認知度促進活動
共立アイコム	意識調査の遂行 調査結果の集計と分析

【生分解性プラスチック「Mater-Bi（マタビー）」について】

マタビーは、植物由来ポリマーやトウモロコシ澱粉などを原料とする、欧州で最も採用実績のある生分解性プラスチック（イタリア・ノバモント社製）で、地中の微生物によって水と二酸化炭素に分解される（海洋での分解性もデータ上で立証されている）ことから、環境負荷の低減に寄与する素材として注目を集めています。日本でも社会的ニーズの高まりを受け、各種フィルム製品の原材料として採用されるなど、近年、その使用用途を広げております。GSI クレオスは、環境保全への取り組みの一環としてマタビーの普及と用途開発に注力しており、各メーカーと共同で、農業用マルチフィルムの拡販を図るとともに、ストローやレジ袋、衣類用接着シートなどを開発しております。

【生分解性プラスチックとバイオマスプラスチックの違い】

生分解性プラスチック	：	微生物の働きにより水と二酸化炭素に分解され、環境負荷低減に大きく貢献するプラスチック。
バイオマスプラスチック	：	植物などの再生可能な有機資源を原料とするプラスチック。非生分解性のタイプが多い。

以　上

＜本件に関するお問い合わせ先＞
株式会社 GSI クレオス　経営企画部 企画広報課
TEL：03-5211-1802

＜マタビーおよびマタビー製品に関するお問い合わせ＞
株式会社 GSI クレオス　Mater-Bi 販売チーム
TEL：03-5211-1814

＜関連ウェブサイト＞
株式会社ＧＳＩクレオス　オフィシャルサイト 「マタビー」紹介ページ
https://mater-bi.gsi.co.jp/